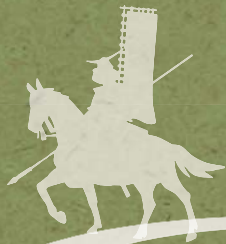


THE GUIDANCE OF AIZU FESTIVAL

会津まつり  
の  
葉

しおり



## ごあいさつ



昭和28年、先祖に感謝する市全体の統一祭として、会津まつりの原形が

スタートして以来、毎年開催されてきた会津まつりは、今年で66回を迎えます。

このまつりは、会津藩や会津の歴史を重視し、「先人への鎮魂と感謝」など、

戊辰戦争後に生きる会津人としての誇りや熱い思いから始まったまつりなのです。

会津まつりで繰り広げられる様々な催しには、それぞれの意味があり、

私たちはこのまつりの意義や内容を理解して継続していかなければなりません。

この冊子には、各行事の意義、そこに込められた会津の思いも記載されて

いますので、ぜひ参考にさせていただければと思います。

今年は戊辰一五〇周年を迎えたわけですが、歴史を重んじるまつりとして、

市民の皆様とともに後世に受け継がれるまつりにしていきたいと思っております。

会津まつり協会会長（市長） 室井 照平



## 目次

- 1 ごあいさつ
- 3 会津まつりとは
- 4 会津まつりのはじまり
- 5 提灯行列
- 6 会津磐梯山踊り
- 7 会津藩公行列
- 9 日新館童子行列・鼓笛隊パレード
- 10 会津藩の歴代領主たち
- 14 戊辰と明治に生きた会津人
- 16 会津藩と新選組
- 17 会津まつりそこが知りたい



# 掟

一、年長者の一言ふらふら  
背いてはふりませぬ  
二、年長者には御辞儀を  
「おれもふりませぬ」  
三、屋言、いふ事は  
なりませぬ  
四、卑怯な振舞をしては  
ふりませぬ  
五、弱きをいぢんくは  
なりませぬ  
六、戸外で物を食つては  
ふりませぬ  
七、戸外で婦人と一言も  
交してはふりませぬ  
ならぬ、ふりませぬ  
ぢのてけ

<写真資料提供及び協力> 敬称略、順不同

会津若松市、同志社大学 同志社社史資料センター、福島県立博物館、仙台市博物館、  
米沢市上杉博物館、会津若松市史研究会、会津武家屋敷、土津神社、興徳寺、  
極楽寺、信龍寺、法界寺、秋月梯次郎顕彰会、福島民報社、米山高仁、会津嶺、  
飯沼一元、土方歳三記念館

## 【 会津まつりの基本理念 】



先人感謝祭



出陣式（鶴ヶ城本丸）

# 会津まつりとは

戊辰戦争に散った

「先人への鎮魂と感謝」、そして

秩父宮親王殿下（昭和天皇の弟宮）と

松平節子姫のご成婚により会津藩の

復権が叶った「祝いと喜び」の精神を

根幹に据えて後世に伝えていくまつりです。

会津まつりはこれからも、

そうした「会津の心」を決して忘れることなく

会津の人々と共に、

時代に即した形で進化していきます。



AIZU FESTIVAL



第1回会津まつり開催の福島民報会津版記事 会津図書館蔵 提供：福島民報社



第1回会津まつりの山車 提供：会津図書館



写真提供：会津図書館

# 会津まつりの はじまり

会津まつりは、昭和3年の秩父宮親王殿下と松平節子姫のご成婚に沸いた会津で行われた様々な祝賀行事が始まりで、昭和28年（1953）に会津観光の振興を追い風に会津の統一祭として第1回会津まつりが開催されました。

開催日は、基本的に戊辰戦争で降伏した9月22日から3日間としています。

## 昔の行列

掲載の写真資料は、記録では「会津大名行列」というタイトルで昭和5年のキャプションがついています。以前からこうした武者行列のイベントが行われており、古くから市民には愛着深い行事であったことが分かります。



写真提供：会津図書館



# 提灯行列

ちようちんぎようれつ

## 提灯行列の由来

幕末の会津藩主、松平容保の六男である松平恒雄を父にもつ松平節子姫と、昭和天皇の弟宮の秩父宮親王殿下との婚約が、昭和3年に宮内省から正式に告示されました。旧会津藩主の孫娘が皇族になるという知らせは当時の逆賊の汚名を着せられた会津の人々を感激と熱狂のつぼに巻き込みました。

節子姫ご一家の来訪を歓迎し、昭和28年7月26日に鶴ヶ城本丸では約3万人で歓迎奉祝会が行われました。翌27日の提灯行列も市内旧謹教小学校から宿泊先の東山温泉に建っていた「重陽閣」(現在は御薬園へ移築)まで約1,500人が行進し、数百人が手にほおずき提灯をかざして、ご一家に歓迎の意を表しました。その様子を重陽閣の窓から節子姫はご覧になり、何度も何度も手を振って「私を励ますこの無数の灯を忘れませんよ」と言っ  
て祝賀の提灯の波をじっと見つめておられたそうです。後に節子姫は、大正天皇の皇后と同じ名前を持つことから勢津子妃に改名されました。勢は伊勢から、津は会津の津から付けられました。

「会津の夜明け」ともいわれるこのご婚儀が、現在の提灯行列の発祥とされています。現在は、市内の子ども会約3,000人が提灯をもって参加しています。

(御薬園開園40周年記念誌より)

※会津東山温泉旅館「新瀧」=「重陽閣」



### 提灯行列コース図



昔の提灯行列

# 会津磐梯山踊り

あいづ ばんだいさん おどり



※青字の所は、踊り手のみなさんが声を掛けます

民謡会津磐梯山で有名な磐梯山は、古くから神々が宿る神聖な山として崇められてきました。民謡「会津磐梯山」は、会津地方の盆踊り歌で明治につくられ、昭和初期から全国に広まった民謡です。この民謡に合わせて数多くの市民が市内中心部の神明通りで、特設された檜を囲み踊るおまつりが会津磐梯山踊りで2日間開催されます。

## みんなで踊ろう

# 会津磐梯山



イヤヤー 会津磐梯山は 宝の山よ  
ハヨイトヨイト

箆に黄金が エーマタ なり下がる  
チヨイサーチヨイサー  
(間奏笛 音 ハーヨイシヨ)

イヤヤー 東山から 日にちの便り  
ハヨイトヨイト

行かざるまい エーマタ 顔見せに  
チヨイサーチヨイサー  
(間奏笛 音 ハーヨイシヨ)

おはら庄助さん 何で身立つぶした  
朝寝朝酒 朝湯が大好きで  
それで身立つぶした  
ハモットモダーモットモダ  
(間奏笛 音 ハーヨイシヨ)

イヤヤー 主が唄えば 踊りがしまる  
ハヨイトヨイト

やぐら太鼓の エーマタ 音もはずむ  
チヨイサーチヨイサー  
(間奏笛 音 ハーヨイシヨ)

イヤヤー 主と私は 羽織の紐よ  
ハヨイトヨイト

固く結んで エーマタ 胸におく  
チヨイサーチヨイサー  
(間奏笛 音 ハーヨイシヨ)



AIZU BANDAISAN ODORI

※会津磐梯山の歌詞はこの他多数あります

# 会津藩公行列

あ い づ は ん こ う ぎ よ う れ っ



会津まつり最大のイベントが会津藩公行列です。行列は総勢約500名で構成され、朝、鶴ヶ城本丸にて出陣式が行われます。市内では、大砲や火縄銃の実演、太鼓の演奏や呼び込み奉行による隊列の紹介などが勇ましく行われます。武者行列は大勢の観衆の中、沿道からの大きな声援を受けながら凜として隊列を組み市内を練り歩きます。

若殿・姫・白虎隊などは中学生が、中野竹子や娘子隊などは高校生が輪番で担当しています。最近では、姉妹都市のむつ市など会津若松市ゆかりの地からの参加者も多く、隊列の広がりがみられます。

## 會津藩奴隊

会津まつりから生まれた会津藩奴隊。赤い顔と独特のパフォーマンスで人気があり、毎回、拍手喝采で盛り上がります。参勤交代で先頭を歩いていといわれています。





# 会津藩公行列コース図



# 日新館童子行列・鼓笛隊パレード

にっしんかん どうじ ぎょうれつ こてきたい



## 平成29年度 参加校

### ■日新館童子行列

一箕小・松長小・神指小・永和小

### ■鼓笛隊パレード

大戸小・城南小・小金井小・荒館小・川南小・日新小・河東学園小・松長小・一箕小・神指小・門田小・鶴城小・城北小・行仁小・東山小・城西小・湊小・謹教小・ザベリオ学園

会津まつりのフィナーレを飾るイベントとして「日新館童子行列・鼓笛隊パレード」が市内を行進します。日新館童子行列は、会津若松市内全校の中から毎年当番校が割り当てられ、約200人の児童が武者姿に扮し、中央通りから鶴ヶ城まで行進します。日新館童子行列を先頭に、市内全校約2,000人の鼓笛隊パレードが続ぎ、真剣な顔立ちで演奏する子どもたちの姿に市民の声援が飛び交い、熱気に包まれたまま、会津まつりはフィナーレを迎えます。



# 会津の歴代領主たち

あいづ れきだい りょうしゅ

1



佐原 義連  
葦名の祖、佐原義連座像  
(会津若松市・極楽寺蔵)



葦名家 家紋

## 佐原・葦名氏時代 (鎌倉〜室町時代)

平家を滅ぼした源頼朝は、文治5年(1189)奥州藤原氏を滅ぼして鎌倉幕府を開き、東北地方を支配下に置きました。そして、神奈川県三浦半島をおさめていた佐原十郎義連が会津を与えられた。鶴ヶ城は、1384年に葦名氏が館を築いたのがはじまりとされます。

2



伊達 政宗  
伊達政宗画像  
(仙台市博物館蔵)



伊達家 家紋

## 伊達政宗時代 (安土桃山時代)

伊達政宗が磐梯山のふもとの摺上原で葦名氏をやり取り会津の領主となったのは、天正17年(1589)のことです。しかし、豊臣秀吉の奥州仕置によって、政宗は1年ほどで会津を手放すこととなりました。

3



蒲生 氏郷

蒲生氏郷画像 (興徳寺蔵)

蒲生氏郷が作らせた金箔瓦 (複製)  
会津若松市蔵



とよとみいちもん せうりよくぶしょう  
豊田一門と有力武將に認められた金箔瓦でそれが鶴ヶ城に付けられていた。それだけ重要な場所であったことがわかります。

## 蒲生氏郷時代 (安土桃山時代)

天正18年(1590)、蒲生氏郷が伊勢松坂から会津入りしました。氏郷は近江日野城主・蒲生賢秀の子として生まれ、幼くして織田信長の人質となりましたが、その才能を信長に認められ、信長の娘冬姫を妻としました。



蒲生家 家紋



92万石

氏郷は会津に入ると「黒川」の地を「若松」と改め、七層の天守閣を作りしました。さらに町割りを行い、会津漆器や酒蔵など現在の産業の礎も作りしました。また、茶人としても優れ、利休の特に優れた弟子たちである「利休七哲」の筆頭にあげられています。氏郷は、豊臣秀吉の怒りに触れ切腹させられた千利休の子・少庵を会津で匿いましたが、そのおかげで千家茶道が途絶えることなく現代まで受け継がれているといえます。

文禄4年(1595)、氏郷は40歳の若さでこの世を去り、墓は京都の大徳寺に、供養塔が会津若松市内の興徳寺に残されています。



七層の鶴ヶ城 (イメージ)



千 少庵ゆかりの茶室・麟閣

会津まつりに登場する歴代の会津の領主(殿様)は、どんな人たちだったのでしょうか。



# 会津の歴代領主たち

4

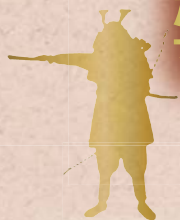


上杉 景勝  
上杉景勝画像  
(米沢市・上杉博物館蔵)



上杉家 家紋

120万石



豊臣秀吉の命により、蒲生氏にかり越後国(現在の新潟県)から上杉景勝が会津入りしました。やがて秀吉が亡くなると、徳川家康と石田三成の対立が激化、三成と親交のあった景勝も家康との溝を深めていきます。そして、慶長5年(1600)、戦いに備えるために景勝が新たに神指城を築き始めたのは謀反の準備であるとして会津に進軍していた家康に対し、三成が兵を上げ関ヶ原の戦いが起こります。戦いは徳川軍の大勝利に終わり、三成側に味方した上杉家は、会津を没収され、米沢30万石に減封されました。



5



蒲生 秀行  
イメージ



蒲生家 家紋

60万石



## 再蒲生時代(江戸時代)

慶長5年(1600)に起きた関ヶ原の戦いで、宇都宮をおさめていた蒲生氏郷の子、秀行は義父(秀行の妻は徳川家康の娘)である徳川家康に味方し、上杉勢の南下を防いだ功績として、会津の領主に再び咲きました。しかし、慶長16年(1611)に会津地方を襲った慶長大地震で天守閣は傾くなど大きな被害が出て、やがて秀行は30歳の若さで亡くなり、跡を継いだ忠郷も25歳という若さで病により亡くなりました。

6



加藤 嘉明



加藤家 家紋

40万石



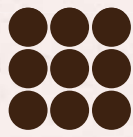
## 加藤時代(江戸時代)

寛永4年(1627)伊予松山から会津入りした加藤嘉明は、領内の整備に力を入れ、江戸に向かう街道を、それまでの背丈山越えの険しい山道から、滝沢峠を通る新しい道への改修に着手しました。子の明成の時代には、蒲生秀行が治めていた時代に会津を襲った慶長大地震により大きな被害を受けていた若松城の改修が行われ、寛永16年(1639)に完成。西出丸や北出丸を増築し、現在見られる姿になりました。

7



保科 正之  
保科正之画像  
(土津神社蔵)



保科家 家紋

23万石



## 保科時代(江戸時代)

寛永20年(1643)加藤氏にかり会津領主となつた保科正之は、二代將軍徳川秀忠の子で、幼い頃には武田信玄の娘・見性院に、7歳を迎えてからは信州高遠の保科正光に養育されました。正之は兄の三代將軍徳川家光の信任も厚く、長く幕府の中樞で政治に携わりました。また、会津藩内では、藩の憲法とも呼べる家訓十五ヶ条を定め、この教えは幕末まで守り受け継がれていきました。

やがて、三代藩主正容の代には松平の姓と葵紋の使用を許されて、以後幕末まで將軍家に連なる家柄として長く忠誠を尽くし幕府を支えました。

### 会津松平家系図

- 初代 保科正之
- 2代 保科正経
- 3代 保科/松平正容
- 4代 容貞
- 5代 容頌
- 6代 容住
- 7代 容衆
- 8代 容敬
- 9代 容保
- 10代 容徳
- 11代 容大 (斗南藩知事)



松平 容保

松平容保画像（会津若松市蔵）

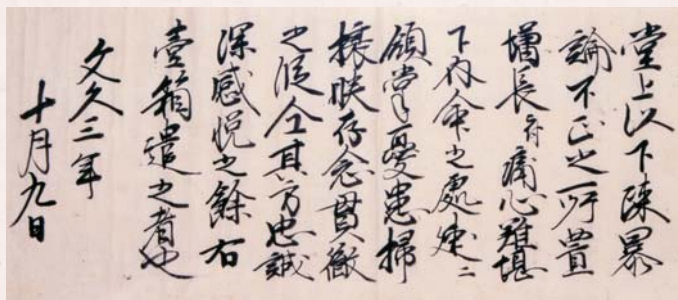
## 松平時代（江戸時代）

九代藩主 松平容保は、美濃高須藩主・松平義建の六男として生まれ、弘化3年（1846）に八代藩主・松平容敬の養子に迎えられました。やがて、嘉永5年（1850）に藩主となると、その後の激動の時代に巻き込まれることとなります。文久2年（1862）に新設された京都守護職を拝命した容保は、この年の末に藩士1,000名を率いて入京し、以後は京都で浪士たちの取締りや朝廷と幕府を取り持ち、14代将軍徳川家茂や一橋慶喜と協力して国内の情勢を安定させる為に力を尽くしました。孝明天皇からは特に厚い信頼を寄せられ、直筆の手紙と和歌を賜っています。しかし、慶応2年7月に徳川家茂が急逝、同年12月に孝明天皇が崩御されると状況は一変し、一気に倒幕へと時代が流れていくことになりました。

慶応4年（1868）1月3日に鳥羽伏見の戦いが始まりますが、15代将軍徳川慶喜が江戸に戻って謹慎すると、容保も恭順の姿勢をみせ、家督も養嗣子喜徳に譲りました。戦場が会津に近づいて来ると、会津藩は藩境に主要部隊を配置しましたが、侵入ルートとしては可能性が低いと思われるいた母成峠をはじめに破られると、敵軍は一気に若松城下へと向かいました。容保も自ら滝沢本陣に陣を構えました。しかし、ここにも危険が迫ったことから城まで退却。8月23日から1ヶ月の長い籠城戦に突入することになります。



会津藩降伏の図（会津若松市蔵）



孝明天皇宸翰（こうめいてんのうしんかん）（個人蔵）

孝明天皇から拜領（はいりょう）し、容保が戊辰戦争後も大切に守り続けてきた御宸翰（天皇直筆の手紙）。孝明天皇が容保に寄せた深い信頼があらわされています。これは、松平容保と会津藩が賊軍（朝敵）ではないという証しでもありました。

やがて9月に入ると、新政府側は攻撃を激化させ、一日に2500発以上もの大砲が撃ち込まれる日も出てきました。そして9月20日、容保はこれ以上犠牲者を増やすまいと降伏を決意、22日には鶴ヶ城の門に降参と書かれた白旗が掲げられました。追手門前で行われた降伏の儀式には、藩主父子ほか家老らが列席し、儀式後には、敗戦の無念と屈辱を忘れないようにとその場に敷かれていた緋毛氈を藩士たちが細かく切り取って持ち帰りました。この毛氈は「泣血氈」と呼ばれています。



松平家 家紋

23万石

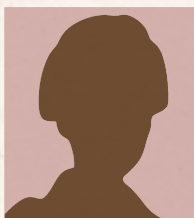


- 恭順（きょうじゆん）… 命令に対して慎んで従うこと
- 崩御（ほうぎよ）… 天皇、皇后などが死ぬ事
- 養嗣子（ようしし）… 家督相続人となるべき養子
- 家督（かとく）… 家の跡目を継ぐ者
- 毛氈（もうせん）… 獣毛を原料にした敷物

歴史を  
駆け抜けた

# 戊辰と明治に生きた 会津人

まつだいら  
松平 照(照姫)



イメージ

天保14年(1843)に第八代会津藩主松平容敬の養女として松平家に迎えられ、嘉永3年(1850)には豊前国中津藩・奥平昌服に輿入れするが、やがて離縁となり会津藩に戻った。和歌が堪能だった照姫は、弟の容保にもその手ほどきをしたといわれる。

慶応4年正月に開戦した戊辰戦争の戦場が会津へと移ってくる。籠城戦では籠城した藩士たちやその家族らの精神的な支えとなり、特に女性たちを指揮して負傷兵たちの看護や食料などに気を配った。降伏開城後は容保たちと共に謹慎の身となったが、やがて赦されて生家である飯野保科家へ戻った。

かやの  
萱野 権兵衛



イメージ

幕末の会津藩家老。慶応4年(1868)に戊辰戦争が勃発すると、権兵衛も各地に転戦した。やがて8月には若松城下に戦場が移り、会津藩は籠城戦を繰り広げたが、9月22日に会津藩は降伏開城となった。降伏の儀式の際には、権兵衛も松平容保と喜徳の藩主父子とその他の重臣たちと共にその場に臨み、またこのとき権兵衛を筆頭に家臣たちの連名で主君の助命嘆願を提出した。

同年12月には新政府側から会津藩の戦争責任者を差し出すように命じられ、三人の家老が責を負うことになるが、田中土佐・神保内蔵助は戦死していたため権兵衛が一人でその罪を背負うことので決着となり、明治2年(1869)5月18日、切腹した。

じんぼ  
神保 内蔵助



イメージ

会津藩家老。主君松平容保が京都守護職を拜命するとそれに従い上洛し、元治元年(1864)の禁門の変の際には、天王山に立て籠もった長州藩の真木和泉らを自刃させた。

慶応4年(1868)正月に戊辰戦争が開戦すると、鳥羽伏見の戦いの途中で容保は徳川慶喜に引き連れられ江戸へ向かったが、この責任をとりされ内蔵助の嫡男である神保修理は切腹した。やがて、8月22日早朝に会津藩境の母成峠が敵に攻め落とされ、23日には城下に敵が攻め寄せたため内蔵助も城下に出て敵と戦った。しかし郭門の一つ六日町口を守りきれず敵が侵入。その後、六日町口の守備についていた家老・田中土佐と共に自刃した。

たなか  
田中 土佐



イメージ

会津藩家老。主君松平容保が京都守護職を拜命すると、元会津から西郷頼母とともに京に駆けつけ、なんとかこの任を返上するように容保を説得しようと試みた。それでも容保が就任すると、主君が任務を心置きなくこなすことが出来るように、そのそばで支えた。

慶応4年(1868)に戊辰戦争が開戦し、鳥羽伏見の戦いでは、田中土佐は容保に次ぐ立場で戦いを指揮したが敗れ、戦場が会津城下に移ってくると、土佐も兵を率いて勇敢に戦った。しかし郭門の一つである六日町口を守りきれず、家老・神保内蔵助とともに医師・土屋一庵邸で自刃した。

やまかわ おおくら  
**山川 大蔵(浩)**



(会津武家屋敷 写真提供)

幕末の会津藩を支えた若き家老。15歳で山川家を継ぎ、慶応2年(1866)には幕府の遣欧使節団に同行して西洋の文化に触れ見聞を広めた。しかし、帰国後まもなく戊辰戦争が起り、大蔵(のちに浩と改名)は各地で勇ましい戦いぶりをみせる。戦場が会津に移ってきた際に、郷土芸能である彼岸獅子を引き連れて敵の包囲網を突破して堂々と入城を果たしたエピソードは有名。敗戦後は、新しく立藩された斗南藩の運営の実質的責任者として、苦しい生活を強いられている旧会津藩士たちのために奔走した。やがて、陸軍に出仕し、当時はまだ薩摩藩長州藩出身者がほとんどだった軍部で頭角を現し、佐賀の乱や西南戦争でも功績を残した。一方教育者としても優れ、東京高等師範学校や女子高等師範学校などの校長もつとめた。

さいごう たのも  
**西郷 頼母**



晩年の頼母 (会津武家屋敷 写真提供)

幕末期の会津藩家老。松平容保が高須藩から養子入りした際には養育係をつとめた。容保が京都守護職を命じられると藩を守りたい一心で守護職の辞退を献言したが、このときの強引な言動が元で家老職をとかれ隠居となった。しかし、戊辰戦争が開戦すると家老へ復職し、白河口の防衛軍総督に任命されたが白河城は敵の手に落ち、旧幕府軍は大敗した。8月22日に会津藩境の母成峠が破られ、新政府軍が若松城下に侵入してくると、頼母は長男の吉十郎を伴って籠城した。この時西郷家の家族一族らは屋敷で全員自害し、西郷家の殉難として知られている。頼母は籠城中に城外にいる軍勢への使いの役目を命じられて城外へ出され、その後の行方は一時わからなくなるが、函館で捕縛された。戊辰戦争が終わると館林藩に幽閉されたが、明治3年(1870)には赦免、明治13年には容保が宮司となった日光東照宮の禰宜をつとめた。

さがわ かんべい  
**佐川 官兵衛**



(会津武家屋敷 写真提供)

佐川官兵衛は、容保が京都守護職を拜命して上洛するとそれに従い京にのぼり、新たに組織された別選隊隊長となり、京都警備の任務を精力的にこなした。その様子は「鬼官兵衛」のあだ名がつけられるほどだった。やがて慶応4年(1868)鳥羽伏見の戦いが開戦すると、自分の隊を率いて参戦した。その後、越後方面にも転戦、長岡藩との交渉などを進めた。新政府側が城下に侵入した後、8月29日には兵士たちを率いて城外へ戦鬨に出て各地で死闘を繰り広げた。会津藩の降伏時も南会津で戦い続け、ようやく降伏したのは数日後のことだった。明治7年(1874)になると東京警視本署につとめ、明治10年(1877)に起きた西南戦争では巡察隊を率いて従軍、このときに受けた銃弾が元で戦死した。

あきづき ていじろう  
**秋月 悌次郎**



(秋月悌次郎顕彰会 提供 会津武家屋敷 写真提供)

江戸にある幕府の学問所である昌平塾で学んだ。優秀だった秋月は、その有能さを見込まれ、容保が京都守護職を拜命した際には公用人として上京し、八・一八の政変では、秋月と薩摩藩士高崎佐太郎が大きな役割を果たしたが、まもなく蝦夷地へと赴任を命じられた。慶応4年(1868)に戊辰戦争が開戦し8月に戦場が会津へと移つてくると、秋月も前線に出て防衛戦を指揮したが、やがて容保の降伏の決意を受けて新政府側と降伏開城の調整役をつとめた。開城後は他の藩士らと同様に猪苗代で謹慎し、その後、東京の伝馬町に送られた。やがて明治5年に赦免となると、東京帝国大学や第一高等中学校、第五高等学校などにつとめ、明治期の教育界に大きく貢献した。

やまかわ けんじろう  
**山川 健次郎**



(会津武家屋敷写真提供 真龍寺蔵)

山川浩の弟。戊辰戦争当時はまだ16歳になっていなかったため、白虎隊には入隊できなかったが、籠城戦が始まってから再編成された合同白虎隊に加わり、健次郎も参戦した。戦後は、長州藩士・奥平謙輔のもとで書生をしたのちに、明治4年(1871)には国費でアメリカ留学を果たす。帰国後は教育界に身をおき、のちに、東京帝国大学や九州帝国大学、京都帝国大学の総長を歴任した。また、戊辰戦争により賊軍の汚名を着せられた会津藩の名誉回復のために奔走し、「京都守護職始末」を兄と共に編纂出版している。

やまもと かくま  
**山本 覚馬**



山本覚馬の肖像写真 (同志社大学 写真提供)

会津藩の砲術指南役をつとめた山本権八の子。子供の頃から優秀で、やがて江戸に出て蘭学を学んだ。会津に戻つてからは日新館の教授もつとめた。松平容保が京都守護職を拜命すると覚馬も上洛し、元治元年(1864)に起きた禁門の変の際には、大砲隊を指揮して長州藩士らと戦った。慶応4年(1868)正月の鳥羽伏見の開戦の時には視力を失っていた覚馬は、なんとか戦いの被害をくい止めるために戦地に駆け付けようとしたが、その途中で薩摩藩につかまり幽閉される。しかしすぐに身元が判明し、やがて解放されてその優秀さを見込まれて京都府御雇いとして働くことになった。その後の覚馬は京都の近代化に大きく貢献、また、京都で知り合った新島襄のキリスト教への情熱に動かされ、同志社設立にも尽力した。

## 山川捨松



鹿鳴館時代の捨松  
(会津武家屋敷 写真提供)

山川浩・健次郎らの妹、幼名を咲。慶応4年(1868)の会津戦争の時にはまだ十歳にもならなかったが、母・艶や姉たちと一緒に籠城戦を戦い抜いた。やがて、9月22日会津藩は降伏開城となる。明治2年に斗南藩(現在の青森県)が成立し、兄の浩が斗南藩の運営を任せられ山川家は斗南に移住したが、一番幼い咲だけは家族と離れ、函館で生活することになった。やがて明治5年(1872)には日本初の女子留学生として渡米することになり、このときに母が遠い異国に行く幼い娘に「捨てたつもりで待つ」という気持ちをこめて「捨松」の名をおくった。11年の留学生生活を終えて帰国した捨松は、やがて旧薩摩藩士の大山巖と結婚する。その後は女子教育の充実に力を注ぎ、同じ留学生としてアメリカで学んだ友人の津田梅子が女子英学塾(のちの津田塾大学)を設立するとこれを支援し、また福祉の分野にも力を入れ日本赤十字社の活動にも積極的に参加し支援した。

## 山本八重



帯刀姿の肖像写真  
(同志社大学 写真提供)

会津藩士山本権八の娘として生まれた八重は、父が藩の砲術指南役をつとめていたため、自分も砲術を身につけていた。戊辰戦争の籠城戦では、この年の正月に起こった鳥羽伏見の戦いで戦死した弟・三郎の遺品を身につけ男性のように髪を切り、当時の最新式銃のスペンサー銃を持ち入城。夜襲に出て敵を攻撃したこともあった。そのほか、他の女性たちと一緒に傷病兵の看護や兵糧の炊き出しなどで奮戦した。やがて9月22日、会津藩は降伏開城するが、この夜に八重が「明日の夜はいずこの誰が眺むらん 慣れし御城に残す月影」という歌を城の土蔵に刻んだとされる。

降伏後は、兄寛馬を頼って京都に移り住み、兄の影響で英語を学び親交のあった新島襄の勧めでキリスト教に入信し、やがて新島と結婚する。新島が亡くなると篤志看護婦として日清日露大戦に従軍したほか、日本赤十字社の活動にも積極的に参加し、福祉に情熱を注いだ。また、八重は茶道にも情熱を注いだ。裏千家に入門し、修養をかさね、やがて「宗竹」の茶名を授与された。

## 中野竹子

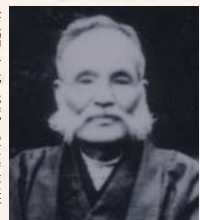


10代後半の中野竹子  
(法界寺蔵 会津武家屋敷 写真提供)

中野竹子は、江戸の会津藩上屋敷内で生まれた。備中松山藩主・板倉勝静の奥向きの祐筆をつとめたこともある才色兼備の女性だったが、一方では幼い頃より剣術も習い、薙刀は免許皆伝の域に達するほどの腕前だった。慶応4年正月、鳥羽伏見の戦いから戊辰戦争が勃発すると、江戸話の会津藩士たちと共に竹子と家族も会津の地に入った。

8月23日に新政府軍が若松城下に侵入してくると、母・妹と共に竹子も籠城しようと城に向かったが間に合わず、同じように籠城できずにいた女性たちと集まり、坂下に避難した照姫の警護のために坂下に向かった。やがて照姫の避難は誤報とわかり、若松城下に戻る途中で家老・萱野権兵衛隊と合流し、女性を戦列に加えるわけにはいかないと止める萱野に無理やり頼み込んで隊に合流させてもらうことになった。そして8月25日、竹子たちは新政府軍と戦ったが、敵の銃弾にたおれ戦死した。

## 飯沼貞吉



(飯沼 二元氏蔵 写真提供)

慶応4年(1868)3月に会津藩内で軍制改革が行われ、この時に新しく年齢別に組織された部隊のうち、一番若い部隊が16、17歳の男子たちで組織された白虎隊である。この白虎隊の中でも、士中二番隊の隊士のうち20名が飯盛山で自刃したことは有名である。西郷頼母の外甥に当たる貞吉もこの中に含まれていたが、奇跡的に一命をとりとめ、戊辰戦争後は通信省につとめ通信技師として働いた。昭和6年仙台で亡くなる。従5位勲4等。

## ヘンリー・スネル



イメージ

慶応3年(1867)、会津藩の家老梶原平馬は長岡藩家老の河井継之助を仲介役にして新潟のエドワルド・スネル商会からライフル銃と弾薬を購入し、これが縁でエドワルドの兄のヘンリー・スネルは会津藩の軍事顧問となった。藩主松平容保はヘンリーに平松武兵衛の名を与え、戊辰戦争が開戦すると、武兵衛は中国などから武器弾薬を運びこみ奥羽越列藩同盟側に提供した。やがて明治2年(1869)、武兵衛は米国のカリフォルニアに日本で結婚した妻を含む会津の人々約40人と共に移住した。その後の消息は不明。





# 会津藩と新選組

幕末の京都の不安定な情勢に対応するために、幕府が新しく設置した京都守護職を拜命した会津藩主の松平容保や藩士たちと共に京都を守った新選組でしたが、十五代将軍徳川慶喜が大政奉還をしたことにより、徳川幕府の歴史に幕が下ろされました。そして、この流れに最後まで抵抗したのが会津藩であり、新選組でした。

慶応4年（1868）1月、京都郊外で起きた鳥羽伏見の戦いから始まった戊辰戦争は、新政府側優位のうちに、戦いの場合は春に関東へ移り、上野の山での攻防戦、江戸城の無血開城などが起こる中で東京の多摩地方に拠点を移した新選組でしたが、局長の近藤勇が流山で捕縛・処刑され、副長の土方歳三は、新たな拠点を会津に定め、徹底抗戦の備えをしていた会津藩に合流します。会津へ来た土方は、それまでの戦いで負った傷の治療のために、東山温泉に逗留します。その間、温泉のふもとにある天寧寺に、近藤勇の墓を建立しました。その中には、近藤の遺髪が納められていると言われています。やがて土方は、函館へと向かった榎本武揚に合流します。そして残った最後の新選組隊士たちとともに五稜郭で翌年まで戦い続け、明治2年5月に戦死しました。

一方、8月には新政府軍が鶴ヶ城に攻め入り、会津への総攻撃が始まり、鶴ヶ城をめぐる籠城戦は一ヶ月に及びました。会津へやってきた新選組隊士たちも、三番隊隊長・斎藤一の指揮のもと「会津新選組」を組織して新政府軍との戦いを繰り広げましたが、やがて藩主松平容保の決断により、会津藩は降伏・開城することになりました。



(近藤勇生家子孫 宮川氏蔵  
写真提供)



(土方歳三資料館 写真提供)



(県立博物館 写真提供)

さいとう いちろう  
斎藤 一

七日町の阿弥陀寺にお墓があります

ひじかた としぞう  
土方 歳三

こらどう いさみ  
近藤 勇

東山の天寧寺にもお墓があります



会津まつりでは隊として行進しています

# 誠

# 会津まつりそこが知りたい



## 会津藩公行列の参加者は何人？

会津藩公行列に参加する人たちは約500名です。その他実行委員が約50名、裏方さんが約500名。準備期間は約半年です。  
また、最近では会津若松市とゆかりのある都市からの参加者も多くなっています。

## 馬は、どこからやって来るの？

藩公行列で使用する馬は約20頭で、神奈川県及び相馬市などから集められ、乗馬クラブなどの皆さんが世話にあたります。



## 衣裳の着付けは、誰がするの？

藩公行列の参加者が扮するさまざまな衣裳は、裏方さんの分も含めて約500〜600着を用意しています。  
それらは東京都調布市の衣裳業者に依頼し、搬入から撤収まで行われます。

衣裳着付けは23日朝7時から鶴ヶ城体育館で行われ、化粧は貸衣裳業者及び会津若松市美容師組合の協力で行います。  
かつら合わせは、事前に参加者から頭の寸法を報告(当日貸衣裳業者によるかつら合わせもあります)してもらった上で、会津若松市美容組合のみなさんの協力により、事前に市内のホテルでリハーサルを行い、当日に備えます。



着付けリハーサル・記者発表の会場にて

会津まつりのメインイベントと言えば、会津藩公行列！ 毎年何百人もの人たちが参加し、歴代領主、そして侍や兵士やお姫様などに扮し、勇壮華麗な姿で街中を練り歩きます。その裏にはあまり知られていない多くの人たちの苦勞や努力があるのです。

## 衣裳を着けた参加者のトイレはどうしてるの？

行進中は、基本的にトイレは我慢！ですが、そうは言っても、生理的に限界があるので緊急の場合は、近くの店舗などのトイレを借りることもあります。



## 大砲の重さは、どのくらい？

大砲の重量は約200キログラム。出陣式では本丸のステージ前で実演が行われます。ぜひ、その爆音と迫力を感じてみてはいかがでしょうか。

## 童子行列や 鼓笛隊の順番は、 どうなっているの？

童子行列と鼓笛隊パレードは、市内の小学校が担当します。特に童子行列は、市内小学校の輪番で約200名が武者姿に扮して、鶴ヶ城に向かって威勢よく出発します。童子行列の後には、鼓笛隊パレードが続きます。先頭の小学校は、次の年は最後尾になるような順番になります。全校約2,000人の元気な演奏が響き渡ります。

## 雨や、 暑さの対策は？

雨の場合は、参加者に事前にビニール製のポンチョ(頭巾)を手渡してあるので、それを被って雨を防いでもらいます。また、暑さによる体調不良を防止するための給水箇所も数カ所所設されています。

## 鎧・兜の重さは、 どのくらい？

鎧・兜の材質は、当時は鉄製だった部分但现在は、繊維を固めたファイバーやアルミニウム型に変わり、その他の部分は皮や錦糸等が使われ、昔の鎧・兜に比べると、非常に軽量化されています。それでも大將クラスになると総重量が約20キログラムにもなります。



## 実行委員や 裏方さんたちの 一番の苦労は 何ですか？

一番神経と体力を使うのは、天候の急変による対応と、参加者の事故やケガの防止に伴う警備体制です。マナーを守って事故のない楽しいまつりにしたいですね。



## 会津まつりを通して 思うことや 伝えたい事は 何ですか？

基本理念として、戊辰戦争に散った「先人の鎮魂と感謝」そして、秩父宮勢津子妃殿下のご成婚によって会津藩の復権となった「祝いと喜び」があげられます。こつした会津の心と市民総参加による「会津まつり」を後世に伝えていきたいと思えます。



会津まつり協会

<http://www.aizukanko.com/kk/festival/>

〒965-0042 福島県会津若松市大町一丁目7-3

Tel.0242-23-4141 Fax.0242-23-4343

「会津まつりの葉」平成30年4月1日発行

企画・制作／会津まつり協会

編集 協力(敬称略)／(一財)会津若松観光ビューロー

若松城天守閣 郷土博物館・会津若松市・会津若松市教育委員会・

会津図書館・会津民謡協会・会津鶴

印刷所／田中印刷

會津の想い、  
脈々と。



戊辰150周年  
1868-2018  
SAMURAI CITY AIZU

「義」の想い つなげ未来へー。戊辰150周年。



会津若松市 戊辰150周年記念事業実行委員会

<http://boshin.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp/>